

概 観

事業の概要

当社グループの事業は、ミニチュア・小径ボールベアリングやロッドエンド&スフェリカルベアリング及びピボットアッセンブリーを主要製品とする機械加工品セグメント(当連結会計年度売上高比率43.1%)と、ハードディスクドライブ(HDD)用スピンドルモーター等の精密小型モーター、PC用キーボード、液晶用LEDバックライト等の光デバイス関連製品、インバーター、スピーカー、計測機器を主要製品とする電子機器セグメント(同56.9%)により構成されております。

製品開発は、主に日本、ドイツ、タイ及び米国で行っております。技術本部で中長期的視野の基礎研究開発及び製品開発を、各事業部の技術開発部門ではビジネスに直結する製品開発を行い、各部門間の連携を通じた技術の補完と共有により、効果的な製品開発に努めております。生産はタイ、中国、日本、米国、シンガポール、マレーシア及び英国などで行っております。当社グループ最大の生産拠点であるタイの生産高が連結生産高に占める比率は52.3%(当連結会計年度)であり、これに次ぐ中国での生産高は21.2%(同)です。日本を除くアジア全体の生産高は80.5%(同)であり、海外全体の生産高は91.6%(同)です。

当社グループ製品の主な市場は、PC及び周辺機器(当連結会計年度売上高比率35.4%)、OA及び通信機器(同15.1%)、家電(同7.9%)、自動車(同10.1%)、そして航空宇宙(同10.6%)などです。これらの製品のメーカーである、当社グループの顧客は日米欧のほか中国を中心にアジアで生産を展開する企業が多いため、当社グループの地域別売上高は日本を除くアジアが最も多く、連結売上高に占める比率は52.2%(当連結会計年度)、次いで日本が多く23.1%(同)、ほかは北米・南米と欧州となっております。

当社の組織は、機能的に活動できる体制を目的として13事業部と6本部が社長直属の組織として構成されております。事業部は製造と営業が一体化した組織として担当事業の業績追求を行っております。本部は、各々の機能に応じて各事業部を横断的に側面から支援する組織です。

戦略の概要

当社グループは、「垂直統合生産システム」「大規模な量産工場」「整備された研究開発体制」を世界各地で展開し、「ものづくりで勝てる会社、技術で勝てる会社」を目指して収益性を高め、企業価値を引き上げることを目標としております。

これらを実現し持続的成長を果たすための当社グループのイノベーションは、「新製品の開発」「新市場の開拓」「生産技術の革新」にあります。

1. ボールベアリング関連製品では、成長力の高いミニチュア・ボールベアリング新製品(極小ミニチュア・ボールベアリング等)の開発、生産技術の革新による生産能力強化・拡大、さらに高成長市場の開拓を行い、新たな需要の創出と拡大を図ってまいります。
2. 需要拡大が見込める航空機部品の一層の拡充を図るために、既存のロッドエンドベアリングに加え、高度な技術を駆使した製品の拡大や生産能力の増強を図り、さらなる成長事業へと育成してまいります。
3. ファンモーターをはじめとした精密小型モーター事業をさらに拡充し、ベアリング関連製品と並ぶ柱に育ててまいります。
4. すべての製品について、高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応できるようにしてまいります。

中期事業計画の初年度にあたる当連結会計年度においては、「前進」と位置付け、「事業拡大」「利益増大」に取り組み、業績回復を磐石なものにする体質改革を推し進め、成長の先駆けとなる事業への注力を行いました。

さらに来期は、「進歩」と位置付け、「富の創出」「技術の進化」に取り組んでまいります。この3カ年の中期事業計画を達成することで、大きな飛躍を図りたいと考えております。

中期事業計画の指標

2007年5月発表	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
売上高	3,350億円	3,500億円	3,700億円
営業利益	300億円	340億円	380億円
税引き前利益	235億円	260億円	300億円

注:この指標は、発表時点のものであり、2008年3月期実績、2009年3月期計画値とは一致していません。

2008年5月時点の2009年3月期の予想数値につきましては、31(次期の業績見通し)ページをご覧ください。

また、長期的な展望として、4年後の2012年3月期では売上高5,000億円を目標といたします。